



NPOで高校生の 夏ボラ体験

“体験”を通じて人を地域を豊かにする
24年目の夏ボラ実施へご支援をお願いします



わたしたちが目指すのは、夏ボラを通じて、高校生がボランティアやNPOをはじめとした地域とのつながりを持ち続け、10年後、20年後先に一緒によりよい社会を創っていくことです。

2003年にはじまったNPOで高校生の夏ボラ体験。当時参加した高校生は、現在40代になります。中には子どもがいて、ボランティアのよさを伝えているという人や、夏ボラをきっかけに進路が明確になり、今も夏ボラで体験した人を支援する仕事に就いているという人もいます。

高校生が実際に体験し、たくさんの大人に出会うことによる可能性の広がりはいくらもありません。高校生とNPO、地域がつながる第一歩をぜひ応援してください。

2003年～2019年

過去の参加者の声

夏ボラがきっかけで自分でもっと研究がしたいと思い、進学先を選んだ。夏ボラがなかったら何に関心を持って大学に進んでいたんだろうというくらい大きな経験だった。

3年連続で参加した夏ボラは人生の分岐点となった。大学ではボランティアサークルに入り、その中で知的障害をもつ子どもたちと接する活動をしたことから、現在は養護学校の教諭として働いている。



のべ参加者数

2510名



認定NPO法人杜の伝言板ゆるる

宮城県仙台市宮城野区榴岡3-11-6
コーポラス島田B-6
TEL:022-791-9323 MAIL:npo@yururu.com

郵便
振替

口座番号：02250-0-43800
加入者名：特定非営利活動法人
杜の伝言板ゆるる

クレジット
決済



一口3,000円で継続的にご支援をいただく賛助会員も募集しています。

- 「認定NPO法人杜の伝言板ゆるる」へのご寄付、賛助会費は、税制優遇の対象となります。 -



夏ボラは、宮城県内の高校生が、夏休み中にNPOの活動に参加するボランティア体験プログラムです。高校生がNPOやボランティア、地域の課題を知り、学び、体感する機会を創出しています。2003年から始めた夏ボラは、今年で22回目を迎えました。NPOの現場で、今年の高校生たちは何を感じ、夏ボラで何を得たのか？その変化には、未来の地域社会の可能性が詰まっています。

Annual Report



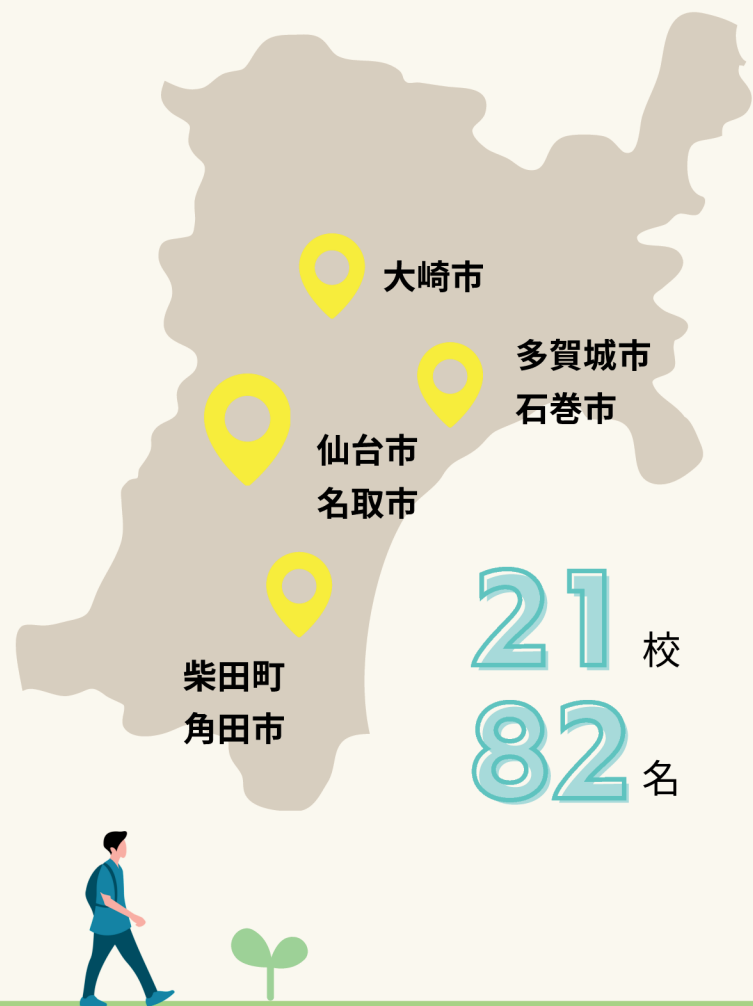
認定NPO法人杜の伝言板ゆるる

2025年度 開催報告

2025年度は高校生82名がNPO19団体でボランティア体験をしました。学校や家庭が中心の生活から地域に飛び出し、ご高齢の方の生活支援を体験したり、障害のある子どもとふれあったり、NPOの活動体験や多世代とのコミュニケーションから、さまざまな学びを得た3日間になりました。

高校生のボランティア体験は、県北から県南まで、広く行われました。周知くださった高校、そして高校生を受け入れてくださったNPOの皆さまに感謝申し上げます。

また、開催にあたって共催のかほく「108」クラブ様、ご寄付をいただいた真如苑様、その他多くの皆様よりご支援をいただきました。御礼申し上げます。



夏ボラは 地域の未来 に向けた “種まき”

- 01 ボランティアやNPO、地域に関わるきっかけになった
- 02 地域や社会課題の存在がより身近になった
- 03 高校生の価値観や将来的な地域との関わりにプラスの影響が生まれた



✓ 高校生の気づきと実際の声

ボランティアだからやらないといけないのではなく、やりたいからやるのだと意識を変えることができた。

思ったより近くでいろいろやっている！

NPO法人は色々あって企業や自治体と違うアプローチをしていること。課題解決もだけど「何がしたいのか」が一番大事。

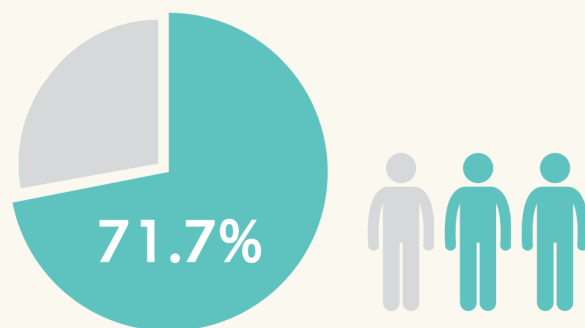
ボランティアで子どもと関わることは想像以上にお互い刺激し合えることがわかった。

たった3日の経験であるにもかかわらず、高校生はこうした大人顔負けの発見・気づきを得ていました。夏ボラを通じて見られた大きな成果です。受け入れにご協力いただいているNPOが、丁寧に「NPOとは何か」「なぜ活動が必要なのか」を説明し、実際の活動現場にふれる機会を作っていただいたことの表れと考えられます。高校生が地域社会を考えるきっかけとなる夏ボラ。NPOにとっては、活動や取り組む社会課題を若い世代に伝えることにもつながりました。

夏ボラ卒業生の声

私は2022年度の夏ボラに参加し、現在はゆるるのインターン生として活動しています。夏ボラへの参加は、より地域に貢献できる活動をしたいと思うきっかけになりました！大学でも、様々なボランティア活動を経験しています。夏ボラ体験から3年、現在はゆるるでの活動にワクワクする日々を送っています！

✓ 体験後の高校生の71.7%が「ボランティアを続けたい」



「夏ボラ体験に参加して、今後やってみたいことはありますか」という設問では、71.7%の高校生が「ボランティアを続けたい」と回答しました。

また、「地域の課題について、もっと知りたい・学びたい」は46.7%、「NPOやボランティアについて、もっと学びたい」は45.0%となりました。「NPOで働いてみたい」は、体験前の0%から8.3%に上昇しました。夏ボラが、進学や就職後もNPOやボランティア、地域との関わりを持ち続けるきっかけになっていることがわかります。

✓ たった3日、されど3日。NPOで体験した高校生の声

角田高等学校2年 M.Aさん

体験先の「基ランティア」では小学生と囲碁の対局をしたり、囲碁教室の準備や片付けを経験しました。

囲碁は未経験でしたが、体験先と顔合わせをする事前学習会で、囲碁アプリを教えられました。予習をしたことで、不安なく活動に臨むことができました。普段小学生と話す機会がなく、最初は緊張しましたが、何気ない会話を通して楽しく話せるようになりました。体験を通じて子どもとの関わり方を学ぶことができたと思います。

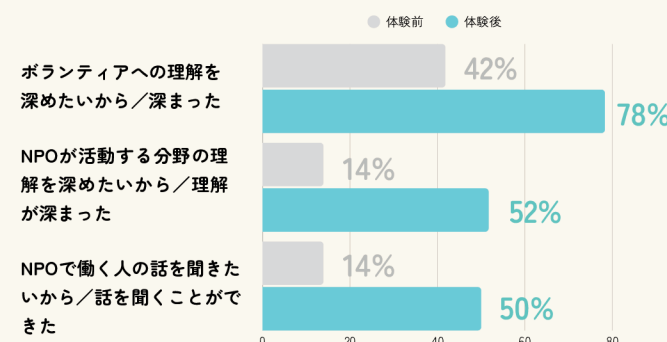
角田高等学校 A先生



夏ボラはさまざまな活動分野があり、生徒も進路に関係した体験先を選べるのが魅力だと思います。



✓ NPOやボランティアへの意識が変わり、将来的な行動の後押しに



体験前後に高校生が夏ボラに期待すること、夏ボラで得たことを聞いた設問（複数回答）では、全ての項目で期待を上回りました。グラフに、体験前に比べ期待を大きく上回った回答を抜粋しました。体験前は、自己成長や自身の進路のための参加理由が多くありましたが、体験後はNPOやボランティアの理解が深まったことや、実際に活動する人に話を聞いたことを「夏ボラから得たこと」と感じた高校生が多く見られました。

